



2012年6月15日

キャンパスアジア・プログラム

立命館大学、広東外語外貿大学（中国）、東西大学校（韓国）の

三大学による国際交流協定の締結について

立命館大学と広東外語外貿大学（中国）、東西大学校（韓国）は、それぞれの国の文部科学省・教育部が連携し、募集した「キャンパスアジア・プログラム」に採択され（平成23年11月に文部科学省が発表）、平成25年2月より共同プログラムをスタートします。プログラムでは各大学で選考された学部生30名（1大学10名／以下「パイロット学生」）が2年間にわたって3大学をまたにかけて共に学び、日中韓の言語力や文化・文学・歴史等に深い理解力、ならびにそこに横たわる諸問題を人文学的知見から洞察・分析して具体的な解決を図ることができる、次世代の人文学リーダーを育成します。

また、本事業は交換留学等のこれまでの国際交流とは根本的に異なった、日中韓の新しい教育モデルを提供するものです。本事業修了者の卒業後のネットワークを組織化、発展させることで、日中韓の恒久的で持続的な人材バンクを形成することを目指します。

1. キャンパスアジアとは

日中韓の大学が質の保証を伴う交流を拡大し、学生や教員の留学・移動を活発にして人材育成に協力するよう、三カ国の政府が後押しをする構想です。平成21年10月に、北京で開かれた日中韓サミットで、鳩山由紀夫首相（当時）が質の高い大学間交流をすることを提案して受け入れられたのがきっかけとなり、平成22年に開催された日中韓の政府・大学関係者による国際会議（東京）で合意に達しました。欧州で1987年から施行して成果を上げているエラスムス（Erasmus）プログラムをモデルとしており、アジア全体の人材育成の基盤となる出発点としても期待されています。日本では東京大学、一橋大学など10校が採択され、そのうち私立大学の採択は立命館大学のみです。

2. 立命館大学、広東外語外貿大学、東西大学が行なう「キャンパスアジア・プログラム」事業について

<人材育成目標>

【東アジア次世代人文学リーダー】

日中韓の言語に通じ、その文化・文学・歴史等に深い理解力を有するとともに、そこに横たわる諸問題を人文学的知見から洞察・分析して具体的な解決を図ることができる。とりわけ、コミュニケーション力・人文学的理解力に優れ、普遍的価値観から相互理解を促進し、日中韓のネットワーク形成の先頭にたつ文化交流・教育研究分野での国際的リーダーの育成を目指します。

【具体的なアウトカム】

東アジア伝統文化をめぐる基本的知識を有するとともに、変容する現代東アジア文化の現状について理解している人材（知見）

東アジアの理解に不可欠な文献・データなどを分析することができ、現代中国（含台湾）・韓国などの文化コンテンツ（文学・映画・ドラマ・アニメ・言語など）の分析を通じて、各国・地域の社会・生活・歴史・メディア状況を理解することができる人材（スキル）

中国語または朝鮮語あるいは中韓二カ国語の実践的学習や現地実習などを通じて、東アジアの人々と積極的に交流し、国際的な舞台で活躍することが可能な高いコミュニケーション能力を身につけている人材（コミュニケーション力）

東アジアの諸問題の平和的・共生的な解決を目指すことができる人材（実践力）

【卒業後の進路】

日中韓を舞台とする企業・公共機関・教育研究機関・NPO 等

<対象>

- ・2012 年度に 1 回生、2 回生である文学部生（立命館大学）
- ・2012 年度に 1 回生である学部生（広東外語外貿大学、東西大学校）

<提供カリキュラム>

【移動キャンパス】

30 名の学生が 2 年間をかけてそれぞれのキャンパスを 2 度ずつ国際移動し、約 3 か月の共同生活を行いながら各国の言語、各国研究の現地学習を行います。

受入学生への各大学提供科目例

東西大学校	基礎韓国語、韓国語ヒアリング、韓国大衆文化の理解、東アジア文化の理解、韓国文化遺産探訪、国際開発協力の理解、東アジア懸案研究、東北アジア社会文化など
広東外語外貿大学	基礎中国語、中国語ヒアリング、中国語作文、中国語会話、中国事情、中日比較文化、中韓比較文化、中国文化概論、現代中国語、文化産業概論など
立命館大学	日本語、日本語ライティング、日本語講読、日本事情、日本文学概論、日本史概論、日本文化論、日本経済概説、現代東アジア言語文化論、京都学概論など

【三大学共同カリキュラム】

日中韓連携ゼミナール

統一テーマを設定し、日本語を共通言語として、各国学生による研究発表および討論を実施する学生交流型の遠隔授業です。

日中韓文化講義

三大学の学生を対象とした各国概論講義(文化・歴史・経済・社会・政治など)を、各国言語で行い、遠隔システムを通じて相手二大学にも開講します。

三カ国ショートステイ

日中韓連携ゼミと連動させ年 2 回、夏季(8 月)・春季(2 月)に三大学を 7~10 日間相互訪問する。三大学学生混合の小グループに分かれ、現地集中講義・討議及びフィールドリサーチ等の実習を実施します。

日中韓リーダーズフォーラム

本プログラムの最終成果発表プログラム。各言語による研究発表などを公開で行う。各国の 4 年間の学びの集大成として最終年度に実施し、外国語運用能力をはじめ専門学習の到達度を検証します。

【現地キャリア教育】

現地インターンシッププログラム

各国の現地における企業での就業体験や教育実習等を行います。

現地キャリア開発プログラム

各国の企業・自治体・機関等の研究や見学を行います。

移動キャンパスの実施時期

滞在国内		中国			日本			韓国		
1年次(学生選抜)		日中韓各10名、計30名を選抜、本国にて履修 夏季・春季休暇中に相互理解のためのショートステイ(各国1週間ずつ、計3週間)に参加								
2年次	1学期(2-4月)	日10名	中10名	韓10名	-			-		
	2学期(5-7月)	-			日10名	中10名	韓10名	-		
	3学期(9-11月)	-			-			日10名	中10名	韓10名
3年次	1学期(2-4月)	日10名	中10名	韓10名	-			-		
	2学期(5-7月)	-			日10名	中10名	韓10名	-		
	3学期(9-11月)	-			-			日10名	中10名	韓10名
4年次		日中韓リーダーズフォーラム、海外インターンシップに参加								

<単位の扱いについて>

各大学の講義を受講し、取得する単位は単位互換制度により、自大学の単位として認定されます。なお、卒業時にそれぞれの大学の学位が認定されるプログラムではありません。

3. 組織運営

<三大学教職員合同会議>

三大学の教職員が集う会議を中心に、東アジアにおける多国間大学連携による高等教育プログラムの運営組織モデルを構築する。2月・8月に実施する三カ国でのショートステイに合わせて、それぞれの大学で三大学教職員合同会議を開催する(年3回を予定、必要に応じて、高度な遠隔システムによる会議も開催)。合同会議の役割は、各種情報の共有、およびプログラム運営にかかわる以下のような事項の調整・協議する場と位置付ける。

- 人材育成目標に関する意見交換、目標共有
- カリキュラム、成績基準、単位認定等に関する調整、協議
- プログラム運営、学生支援等にかかわる情報共有、必要な事項の協議

4. 3大学のこれまでの連携

平成15年以降、三大学間でテレビ会議システムを使用した遠隔講義(以下日中韓連携ゼミという)を実施し、正課科目として各大学が単位を認定してきました。また夏季と春季には、7~10日間程度の集中授業をローテーションで各国において実施し、講義・フィールドワーク等を実施してきました。これらを通じて、東西大学、広東外語外貿大学の外国語学部の学部生・院生と立命館大学文学部・文学研究科の学部生・院生が、現代日中韓の各文化・経済・社会の諸問題や教科書問題・領土問題等の共同テーマに基づいて調査・研究をおこない、それを相互に発表し、議論をおこなってきています。この8年間で、日中韓でのべ703名がこのプログラムに参加し、修了者は留学先の国などで大学教員、中高教諭、翻訳通訳業などで活躍しています。相互の留学率も高まり、ま

た職員の相互研修も実施し、立命館大学と広東外語外貿大学の間では修士課程の複数学位制度が設けられるなど、三大学間では共同運営キャンパスのための基盤が構築されてきました。

5.3 大学が所在する都市と特徴



以上